

泥炭採掘跡地植生回復の保全と復元に関する研究

北海道大学大学院 地球環境科学研究所・環境科学院・露崎研究室 (tsuyu@ees.hokudai.ac.jp)



泥炭採掘後の植生回復機構を明らかとし、それを応用することで生態系復元を目指した研究を行っている。まず、①採掘年代の異なる地域の植生を比較し自然状態での回復過程を、②フロラ作成により侵入種の特性を知る。次いで③ミカヅキグサ定着には、種子トラップ効果が必須であり、その後のヌマガヤ草地への推移には、④リター蓄積が鍵であることを明らかとした。リターが蓄積すると⑤シードバンクも発達する。ヌマガヤ草地になると被陰により⑥紫外線を含む直射に弱い植物も侵入可能になる。植物があまり定着できない地域では、谷地坊主が⑦他種定着促進効果を発揮することが分かった。ミズゴケが定着するようになると⑧ナガバノモウセンゴケの(絶滅危惧種)も認められるようになるが、本種は競争に弱く、⑨他種の定着しない高水位の生息地に押し出され、主に栄養繁殖により個体群を維持していた。⑩これらの知見を応用した生態系復元実験を行っている。

文献を含め詳しくは(<https://hosho.ees.hokudai.ac.jp/tsuyu/index-j.html>)を参照ください

